

インターバンクの声（2017 年 8 月 7 日）

週末の米雇用統計は悩ましい結果になってしまった。7 月の非農業部門就業者数の伸びが 20 万 9 千人と 18 万人程度とされた市場予想を上回り、失業率も前月から 0.1 ポイント低下、これまで期待したほど伸びていなかった平均時給まで増加した。米国のエコノミストやアナリストの多くが米労働市場の良好さが続いているとし、見通しについても明るい指摘している。FRB の年内の追加利上げの可能性が復活したとまでは言い切れないが、9 月の FOMC で保有資産の縮小開始を決定する追い風にはなりそうだ。

ただ、足元の円相場については、雇用統計前の円高バイアスを意識したままで良いのか、それとも 110 円前後をレンジの下限と考えるべきか見方が割れそうだ。強かったり、弱かったりした雇用統計後に発表される一連の経済指標は、雇用統計の結果とは真逆になることも度々あり、今週後半の物価関連指標の行方が気になる。また、複数予定されている地区連銀総裁の発言にも注意が必要だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。